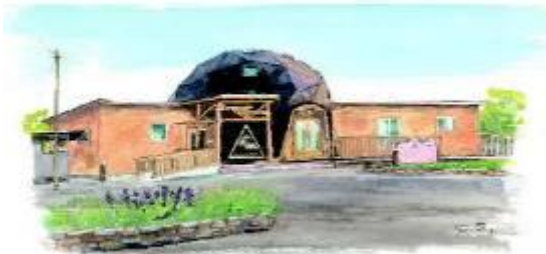


クローバーつうしん

CLOVER TIMES



2017年10月1日 第38号
公益財団法人 金森和心会
クローバー子供図書館 / 発行
〒963-8851 郡山市開成6-346-1
TEL/FAX 024-932-2118



<http://www.k-washinkai.or.jp/clover/clover.html>

「あの日僕はクローバー 子供図書館に来た」

元利用者・東北大学教授

大内 孝

私には、うんと昔の「あの日あの時」の、自分の行動を確かめたい衝動に駆られることがある。専門が歴史学に及ぶ職業柄というよりも、そういうタチなのかもしれない。確かめたい最大の「あの日」の一つに、小学校五年生になったばかりのあの午後、私はクローバー子供図書館に行ったのだろうか、という問題があった。その放課後、一旦帰宅してから、私は親友だった同級のA君と遊び始めた。だのになぜか早々に別れ、それぞれ別行動に移ってわずか一時間の後、A君は不慮の事故に遭い卒然と死んでしまった。不意の永訣。その時、僕はどこで何をしていたのだったか？どうも、図書館に来て新年度の会員登録をしたような気がするのだが……。その時には忘れるはずがないと信じた衝撃の一日でさえ、その記憶の端々は少しずつ霧に包まれ、やがておぼろに霞んでいく。私が郡山を離れて既に数十年が経ち、クローバー子供図書館の場所も建物も変わった。だから、先ごろ懐かしさのあまりお訪ねして、山本館長さんから職員の皆さんとお話するまでは、開館以来の古い記録や資料がまだたくさん残っていて、その中に当時の会員登録の帳簿もあるとは想像していなかった。後日それが見つかったと連絡をいただいて駆け込んだ私の足はほとんどもつれていたに違いない。そこに、四十数年前のその記録が日付とともに書かれていた。「あの日は確かにここに来た！」一瞬、記憶の

霧が吹き払われた。

今回これと併せて、当時の私の「としよかんノート」数年分を、館長さんたちが過去の膨大な資料の山の中から、おそらく大汗をかいて見つけ出してくださった。「としよかんにきた日」と「うちへかりていく本」の全てが書き留められているこのノートは、私の生き方そのものの記録だと言って過言でない。繰り返し読んだイアン・フレミングの『空飛ぶ自動車』やリンドグレンの『カッレ君』ものの挿絵までもが、まざまざと思い出される。

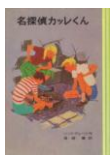
それにしても、家にほとんど本がなかった私のような者に、これほどの費用と労力を投じて豊かな読書を体験させてくれた、この図書館への恩義を今改めて実感する。子どもの頃の読書、これはまさに、私という人間のなりたちそのものなのだと思う。

実のところ、「あの日」の記憶を遮る霧の全部が晴れたのではない。だが、それはそれでいいのだろう。これはもともと歴史学としての事実探究ではなくて、私という人間の何かを大きく変えた切実な「あの日」を呼び戻したいという、ごく私的な営みにすぎないのだから。その過程で思いがけず、子供の頃の読書の記録と記憶までもが帰って来てくれた。私がこうして十歳の僕を思い出し、ここに連れて来さえすれば、A君もきっとここにいてくれるだろう。



「チキチキバンパン」
(全3巻)

イアン・フレミング／作
ジョン・バーニンガム／画
渡辺茂男／訳
富山房



「名探偵カッレくん」
アストリッド・
リンドグレン／作
尾崎義／訳
岩波書店



7月26日 夏休みクラブ 「光のうちわをつくろう」

透明うちわに赤・青・黄3色のセロハンシールを貼って、ステンドうちわを作りました。シールが薄く、はがすのが大変でしたが、重ねると変わる色も考えながら模様を作りました。完成後は、窓ぎわで光を通して、キレイな影を楽しみました。

「光のうちわをつくろうに参加して」 開成小5年 小野寺和希
ぼくは、クローバー子供図書館のイベントに初めて参加しました。

シールをはる時に、重ねてはったり、ちょうちょのシールをはる時に、飛んでるようにはり、仕上げました。

あおいだら、ちょうちょがはばたいて
見えてきれいだなと思いました。
また参加したいです。



イベントの おしらせ

*秋の読書週間

「どうぶつの本を読もう！」10/3～10/21

「貸出無制限」10/24～11/10

「おたのしみ会」10/27

*針生まつり 10/15

図書館コーナーでは、ハロウィンのお菓子バッグを作ります。みんな、あそびにきてね!

*第21回 子ども講座

「クリスマスリースをつくろう」11/18

*冬休み「貸出無制限」12/1～1/6

*クリスマスのおねがいポスト

12/1～12/22



夏休み 貸出無制限

7月18日～8月25日

たくさん本を読んだおともだちに、オススメの本をきいてみました。

柴宮小2年 もりあやと

ぼくの好きなほんは、「むじんとうのサバイバル」です。そのほんのすきなところは、いづくりのばめんです。おもしろかったところは、おじいさんとセミがおどろいているところです。

「無人島のサバイバル」

崔徳熙/文
姜境孝/絵
朝日新聞出版



「鳥のおんどけいをつくろうにさんかして」 開成小2年 わたなべみさき
きょうは、鳥のおんどけいをつくりました。スパンコールをつけるのがむずかかったです。色ぬりは、はみださないようにきをつけてぬりました。たのしくできたし学校のともだちにあえてうれしかったです。

「なにいろで おじいさんとセミがおどろいているところ。ぬろうかな」「きれいにぬろう」など、となりのお友達とにぎやかに話しをしながら、色とりどりにオウムをぬり、羽根や口ばしにスパンコールをつけました。とてもキラキラしたかわいい「とりのおんどけい」ができました。

7月29日 夏休みクラブ 「鳥のおんどけいをつくろう」



「子どもたちとの絵本の世界」
豊田佳代子

息子の好きな物は電車—とても電車愛の強い子で、遊びもテレビも本も、物心ついた頃から全てが電車に通じている子でした。家で見る本は電車の路線図で、幼稚園に入園してからも借りてくる本は電車のお話ばかりでした。もつと様々な絵本で、もつと絵本の世界と一緒に楽しみたい。そう願ってクローバー子供図書館を訪れたのは今から三年前でした。子ども達とあれこれ手に取って選ぶこともとても楽しく、新しい世界がどんどん広がっていきました。現在は息子三人でそれぞれのお気に入りを見つけています。「のらっ子絵本」や「14ひきシリーズ」は、息子達の遊びの糧となる絵本で、主人公たちになりきって遊んでいます。近頃はねずみを自分や弟、従弟妹たちの名前に置き換えて読む事が楽しいようです。「新幹線のたび」で一人で空想旅行。沢山の絵本と出会い、新たな世界を益々楽しみたいです。



「のらっ子」
菊池日出夫/作
福音館書店

「14ひきのあきまつり」
いわむらかずお/作
童心社



寄贈図書

本をいただき、ありがとうございます。

高野由香里様 (郡山) 『シンプルクッキング』など
増井成美様 (郡山) 『よるのおと』

開館日のごあんない

火・水・木・金・土 (第1・3・5)

午後1時～6時

※月末は休館します。

— 編集後記 —

すばらしい青空の広がる秋の始まりに、とても元気な開成小学校の二年生が、生活科の学習「町探検」で町の公共施設を調べる学習にきました。図書館の歴史や昨年度の統計結果などを話したり、お友達からの質問に答えたりと、こちらの方が「わくわくどきどき町たんけん」でした。これをきっかけに図書館や本が好きになるといいなあ。